

## 第7回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日 時：平成30年9月25日 15:00～16:30

場 所：県庁 4階 特別会議室

### 1 事務局説明

- ・ 花フェスタ記念公園活性化の進め方、バラ園再整備計画（案）及び新規カフェレストラン・大型遊具の整備について

### 2 意見交換

#### ○意見

- ・ 2020年の大河ドラマ主演の明智光秀の生誕地として有力なのが花フェスタ記念公園近くの明智城跡。再整備の完成予想図を用いて広報すれば、明智光秀ファンに、完成したらまた来たいと思わせる。
- ・ モロッコロイヤルローズガーデンについて、今のものは本物とはイメージが違うので、これが本物だというものを作ってほしい。
- ・ 入口となる西ゲートから順番に再整備をしていくにあたり、シンボリックな第一印象を与えるものにすべき。これには成功例がいくつもあり、この公園にはその可能性が十分にある。
- ・ 見る感動に加え、植物や花による感動は何か、その岐阜県らしい感動は何なのかが重要。バラを見てきれいで感動するだけでなく、そこから学びや体験があるという部分を、岐阜県らしくどう作るか。それが加わると物語、トピックスになりお客様が来てみようとなる。「清流の国ぎふ」を掲げ自然との共生を進める県としては、持続可能性がキーワードになる。
- ・ 園内の飲食施設に参画する事業者にとって一番困るのは繁閑差。繁閑差の影響をなくすには、場所を外側に拡大したり縮小したりする仕組みや、イベント等のピーク時の対応ができるのがよい。飲食のピークは夕食であるが、夕食をやらないと利益が上がらないので、事業者としては何かインセンティブがないと難しい。
- ・ お客様が入場料なく入れるのが一番よいが、入場料がある場合は、ここで食べたら入場料がキャッシュバックされるなどの仕組みがあるとよい。
- ・ 結婚式のイベントができる仕組みがあるとよい。
- ・ 遊具は、ばらばら作るより、一か所にまとめた方が認知度を上げやすい。また遊具は特性があり世代が分かれるので、世代感をバランスよく作ると魅力がアップする。
- ・ 品種や生態等にこだわるお客さんは、リピーターになりやすいが、一般的なお客さんはそうではない。必ずしも体系化したものを先に見せ、園の奥行の深さを知らしめるより、まず間口を広げて気づきの空間を作り出すことが大事。
- ・ 芝生が広くきれいに管理されている場所は意外とないが、ローンガーデンは、レストラン等、将来民活が行なわれたときに、解放感を出せる。またバラ園に花がないとき、どう人を呼ぶかは大きな課題だが、芝生に舞台を設け、イベントをしてカバーできる。
- ・ 東のゾーンはよほど新しいものがないと魅力付けにはならない。可児市周辺にホテル

がない。Park-PFI を活用してホテルを整備できれば、話題性も、施設の魅力も高まる。新潟県や長崎県の事例で、公園が閉まったあとに自由に園内を散策できるという、公園内に設置されたホテルが人気。

- 最大の入園者がある時に十分な駐車台数であるのは公共的には正しいが、施設の魅力としては閑散期に駐車場が余っているのはよくないため、東側駐車場を含めて、東の施設群をどう民間と協働するかという戦略が必要である。
- 公園は見る、買う、食べるに加えてコミュニケーションが大事。
- イベントがあれば人を呼べるかもしれないが、非日常性という点でアミューズメント性、エンターテインメント性が少し薄く、「振り切った」ようなひとつのアートや地下庭園などがあるといい。
- 休む場所やトイレがない、休憩場所があるといいという声が多く、年間通じて楽しめる空間があるとよい。
- 公園の全体計画の中で、飲食物販を考えなければならない。また遊具も単に設置するだけでは必ず陳腐化する。飲食、休憩施設、きれいなトイレ等セットで考えなければならない。
- 国際園芸アカデミーの移転が話題に出ているが、東のゾーンについて、教育施設、生涯学習施設が一体となった新たな公園施設ができるとよい。魅力的な飲食物販に加え、宿泊機能があれば県内観光の起点となる。
- 駐車場と施設は一体感が必要であり、有料、無料区域の設定や、夜間の供用区域など含めて考えなければならない。
- 駐車場に多くのバラが植わっているが、入口で感動を与えるのであれば駐車場のバラは減らした方がよい。